

# 宮古港 港湾脱炭素化推進計画 【概要版】

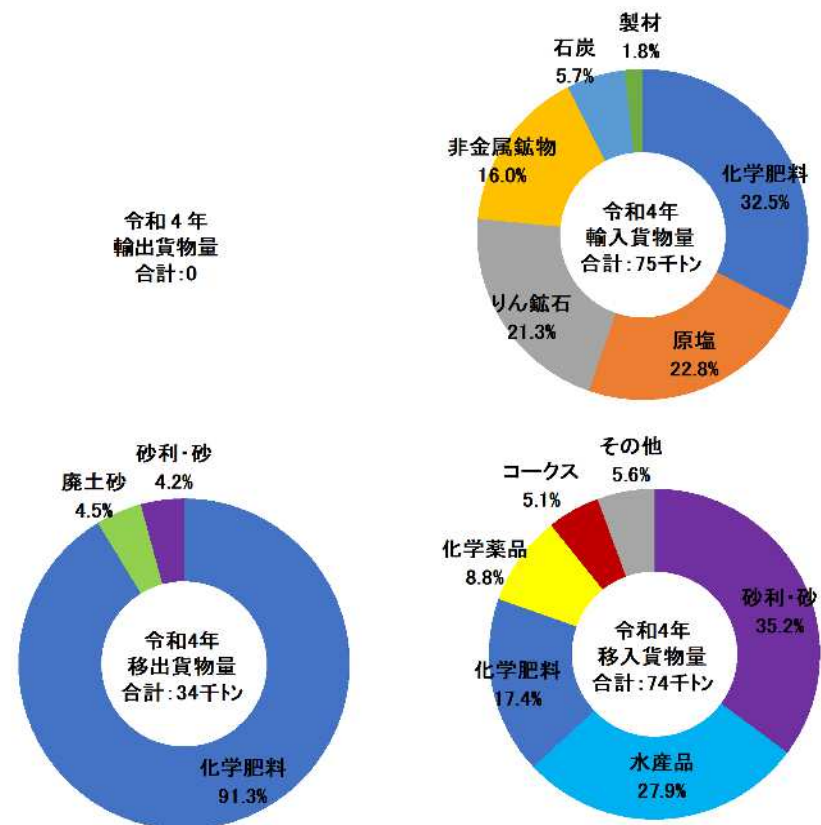
---

令和7年11月  
岩手県（宮古港港湾管理者）

# 1. 基本的な方針

## (1) 港湾の概要

- 岩手県内沿岸のほぼ中央に位置し、外海から遮蔽された良港として知られ、北海道へ向かう漁船の寄港地として、また沖合に豊かな漁場をもつ漁業基地として栄えてきた。
- 昭和26年に重要港湾に指定され、昭和28年には岩手県が港湾管理者となった。
- 平成23年3月に東日本大震災津波の被害を受けたが、平成30年3月に災害復旧事業は完了。
- 藤原地区において平成30年6月にフェリーターミナルビルの供用を開始し、岩手県初となるフェリー航路が就航した。（令和2年4月から宮古港への寄港が一時休止中。）
- 令和4年における取扱貨物量合計は約18万トンで、化学肥料の輸入・移出入や、砂利・砂の移出入、水産品の移入、原塩、りん鉱石、非金属鉱物の輸入が多い。





## 2. 港湾脱炭素化推進計画の目標

| KPI<br>(重要達成度指標)       | 具体的な数値目標                  |                           |
|------------------------|---------------------------|---------------------------|
|                        | 中期（2030年度）                | 長期（2050年度）                |
| KPI 1<br>CO2排出量        | 3,307トン/年<br>(2013年比46%減) | 実質0トン/年<br>(2013年度比100%減) |
| KPI 2<br>低・脱炭素型荷役機械導入率 | 0%                        | 100%                      |

※「港湾における水素等の取扱貨物量」及び「ブルーインフラの保全・再生・創出」については、具体的な取組が明らかとなった時点でKPIを追加する。

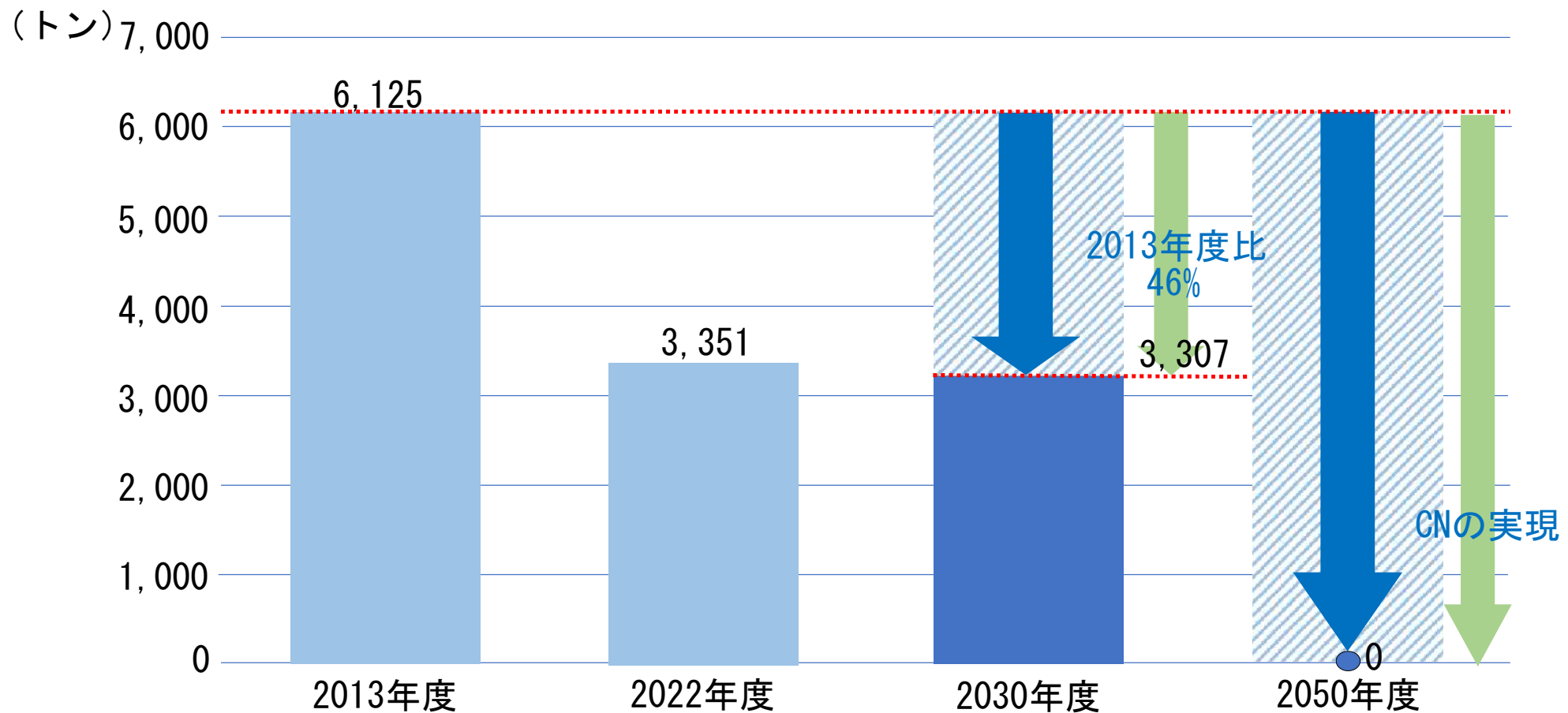


図 CO2排出量（2030年度以降は目標値）

### 3. 港湾脱炭素化促進事業及びその実施主体

#### (a) ターミナル内

- 遊覧船の更新（宮古市）
- 照明施設のLED化（片倉コープアグリ(株)、  
港湾管理者（岩手県宮古土木センター））

#### (b) 出入り船舶・車両

- 現時点では特になし  
（取組内容・実施主体が具体化されていないため）

#### (c) ターミナル外

- 低炭素型荷役機械の導入  
（ホクヨープライウッド(株)藤原工場）
- 照明施設のLED化  
（ホクヨープライウッド(株)、宮古市）
- 太陽光発電設備導入（宮古市）

#### 港湾脱炭素化促進事業による効果以外に見込まれるCO2削減量（全てターミナル外）

- 発電事業者等の取組による電力排出係数の低減によるCO2削減量（2022年度比）-98トン/年

- ・下記の電力排出係数が実現すると仮定した場合の2030年CO2削減量を試算したもの。
- ・国の示す2030年の電力排出係数：0.00025t-CO2/kWh  
（令和3年10月22日閣議決定「第6次エネルギー基本計画」に整合する2030年の電力排出係数）

藤原・出崎地区



太陽光発電設備導入

照明施設のLED化（事務所・工場照明）

低炭素型荷役機械の導入  
（フォークリフトの電化等）



※2

浄土ヶ浜地区



照明施設のLED化（タンク及び管理棟照明）

遊覧船の更新  
（小型化・軽量化による燃費の向上）



※1

照明施設のLED化（上屋等の照明）

※1 出典：宮古市遊覧船「宮古うみねこ丸」HP

※2 出典：株式会社小松製作所HP

#### 港湾脱炭素化促進事業によるCO2 排出量の削減効果

| 項目                                 | (a) ターミナル内 | (b) 出入り船舶・車両 | (c) ターミナル外 | 合計       |
|------------------------------------|------------|--------------|------------|----------|
| ①：CO2排出量（2013年度実績）                 | 675トン      | 1,175トン      | 4,275トン    | 6,125トン  |
| ②：CO2排出量（2022年度実績）                 | 272トン      | 982トン        | 2,097トン    | 3,351トン  |
| ③：CO2排出量（2030年度推定）                 | 242トン      | 982トン        | 2,003トン    | 3,227トン  |
| ④：CO2排出量の増減量（2013年度から2030年度までの増減量） | -433トン     | -193トン       | -2,273トン   | -2,899トン |
| ⑤：2030年度時点の削減率（④/①）                | 64%        | 16%          | 53%        | 47%      |

○今後、脱炭素化の取組の具体化に応じ、港湾脱炭素化推進計画を見直し、港湾脱炭素化促進事業へ追加していくことによって、目標に向けて削減率を高めていく。

## 4. 港湾における脱炭素化の促進に資する将来の構想

### (a) ターミナル内

- 省エネルギー動力設備の導入
- 低炭素型荷役機械の導入
- 太陽光発電設備の導入
- 次世代エネルギー（水素、アンモニア等）への燃料転換

### (b) 出入り船舶・車両

- 低炭素型車両の導入
- 次世代エネルギー（水素・アンモニア等）車両の導入
- 低炭素燃料船の導入
- 次世代エネルギー（水素・アンモニア等）船の導入

### (c) ターミナル外

- 低炭素型機械の導入
- 次世代エネルギー（水素、アンモニア等）への燃料転換
- ブルーカーボン（藻場）の造成



※1 出典：国土交通省HP「CNP形成に資する技術の事例集」

※2 出典：国土交通省HP 地球温暖化防止に貢献するブルーカーボンの役割に関する検討会 令和5年度第1回委員会資料